

今年度の海蔵地区防災会の取り組み

大規模災害は、品を変え・姿を変えて、想像しがたい規模で来襲してきています。最近では熊本地震をはじめとする地震災害や九州北部等の集中豪雨災害などがありますが、県内においても、伊勢地域における集中豪雨災害が新しいところです。

このような事態に備えるため、地区災害対策本部の設置・運営、避難所開設と運営に関する詳細な指針のマニュアル等を編集し、住民の皆様や自主防災隊の方々に非常時の対応を示してきました。

平成29年度は、地理・地形・社会情勢によって災害リスクが大きく変わることから、各町の危険箇所や災害の発生に対して、各町・丁目の地形・地質、人口、防災関連施設の実態がどのようになっているのかを調査しました。合わせて火災時の延焼危険度を把握するため、各建物を4区分(木造構造・防火構造・準耐火構造・耐火構造)に種別分けを行い、各地区の地図上に表示し「地区防災カルテ」作成に向けた資料地図を作りました。



凡例	
町丁目行政区界	病院・医院
各組境界	消防団詰所
市指定緊急輸送道路	交番・駐在所
小学校通学路	小中学校
一次集合場所	幼稚園
指定避難所(小中学校)	保育園
緊急避難所(保育園など)	郵便局
二次避難所	神社
指定避難地(公園・広場)	寺院
緊急避難地	墓地
防火倉庫	工場
自主防災隊倉庫	ガソリンスタンド(協力店)
水防倉庫	コンビニエンスストア(協力店)
防火水槽	水門 樋門・水門
新設性防火水槽	テレメーター水位観測所
プール	テレメーター水位観測点
消火栓	海拔5mライン
	津波避難目標ライン

建物構造	延焼限界距離
木造	9m
防火造	5m
準耐火造	2m
耐火造	0m



我が家の子ども防災 1・2・3



地震や水害、ミサイルなど、災害が起きた時、いろいろな準備や、いろいろな防災の仕方が情報としてテレビや広報で流れています。でも、いざとなるとなかなか思うように行動できなかったり、子どもたちだけの場合、いろんなことを覚えておくのは難しいですね。我が家では、災害が起きた時、最低限のルールとして3つのことを決めています。

その1 災害が起きた場合、まずは自分の身を必ず守る

頭を抱えてしゃがむ
危ないものから離れる

その2 その場にいる人をよく見て、よく話を聞いて、どうすれば安全か考え行動する

みんなで避難するのか？
その場にどまるのか？

**その3 安全が確認出来たら「171」の電話を利用してどこにいるのか伝言を残す
子どもが小さかったときは、電話は無理なので、海蔵小学校!山手中学校!
避難場所を決めていました**

災害はいつ起こるかわかりません。準備をしておくことはもちろんですが、まずは簡単などころから少しずつでも子ども達と防災の意識を高めていきたいものです。(万古町 Mさん宅)

